

## 第 17 回（2024 年度第 1 回）環境振動設計検討小委員会 議事録

A. 日時 2024 年 5 月 28 日（火） 17:00～19:00

B. 開催方法 会議室（306 号室）とオンライン（zoom）併用

C. 出席者（敬称略）

原田主査	○	相原	w	朝日	w	小田島		片岡	
西川	w	濱本	○	東田	w	山中		吉松	
森	w	崔(記録)	○						

D. 提出資料（学会ストレージに格納）

24-1-0 第 17 回環境振動設計検討小委員会 議題

24-1-1 第 16 回環境振動設計検討小委員会 議事録(案)

24-1-2 内部振動\_現状と今後の方針相談

24-1-3 シンポジウムに向けての工程表

24-1-4 シンポジウム構成・プログラム案

E. 議事内容

1. 記事録(案)の確認（資料 No.24-1-1）

・第 16 回（2023 年度第 6 回）の議事録(案)は承認された。

2. 各 WG の進捗報告

2.1 自然振動源 WG

・今回のように上層部がセットバックする不整形な建物の場合、設計や確認計測の方法が整形な建物とどのように違うのかについても設計例に盛り込んでいくつもりである。

・風に対する建物の居住性能に関する設計事例のアンケート調査を計画している。アンケートには、建設地、粗度区分、用途、目標性能、設計で考慮した付加減衰機構などを記入して頂く予定である。アンケート用紙を各委員へ送るので可能な範囲で回答をお願いしたい。

[上記の内容を踏まえて]

・他の委員会にはアンケートを送る必要があるか。

→設計検討小委員会内で実施したいと思う。

2.2 内部人工振動源 WG（資料 No.23-7-2）

・NT ビルの床振動計測データの分析結果と対象床をモデル化して居住性能を評価した結果が示された。

・今回の計測結果をみると 2 人歩行時の小梁中央での床振動は 2gal 程度（2004 年版の V-30）であり、設計例としては揺れが小さく適切ではないような気がする。2 人歩行時の床振動（計測値）は V-50～V-70 になる場合が多いと考えられる。NT ビルの他の場所で再計測を行うのはどうか。

[上記の内容を踏まえて]

- ・環境振動シンポジウムに向けてという点では、歩行による床振動が小さくても、周囲振動の計測によって床の固有振動数と減衰比が確認できたということが示せば良いので、あまり時間もないため、以前計測したデータを用いて設計例を作ってほしい。
- ・運営委員会では、今回のシンポジウムから各小委員会の繋がりを重視したコラボ的なシンポジウムを考えている。その1回目として設計と評価、2回目として設計と計測が予定されている。2回目のシンポジウムでは計測における役割分担がなされ、設計では固有振動数と減衰比という振動特性を、計測（測定分析小委員会）では加振力に対する振動の大きさの評価という風に分けられると思う。
- ・今回のシンポジウムでは計測よりも設計と評価で議論してきた①水平振動と鉛直振動の言語表現をどのように統一していくのか、②評価レベルの幅が広いこと、たとえば水平振動の場合、評価基準でH1～H3での言語表現が同じであることにどのように対処するのか、③時間効果を考慮してより適切な設計を行うためにはどうすれば良いのか、という3つの内容が重要なテーマになると思われる。

### 3. 環境振動シンポジウムに向けて（資料 No.23-7-3 と No.23-7-4）

#### ○構成／プログラム（案）

- ・テーマは（仮）環境振動の設計と評価である。
- ・運営委員会担当，設計小委員会担当，評価小委員会担当，パネルディスカッションの4部構成，各60分で計画している。
- ・設計例の発表は評価に向けてのメッセージを込めた内容にして欲しい。風・歩行・道路交通の各設計例において、言語表現，時間効果，評価レベルの幅の現状について，問題点を評価に問いかけて頂きたい。

#### ○スケジュール

- ・原稿の締め切りが12月中旬頃なので，次回以降の7月，9月，11月の各小委員会で原稿の確認を行う。発表者は，実務で設計を行っている方が良いと思うので，風は西川さん，歩行は朝日さん，道路交通は森さんをお願いしたい。

#### ○評価小委員会との合同打合せ

6月3日（月）17：00～ Zoom

### 4. 連絡事項・その他

#### ○次回：2024年7月22日～31日で調整する

開始時刻は15:00，16:00，17:00のいずれかとする

対面（建築学会会議室）とオンライン併用による開催

以上